

## 東部復興道路（かさ上げ道路）開口部の津波対策について

## 1. 概要

東部復興道路整備事業（かさ上げ道路）は、平成 25 年度から工事着手し、平成 30 年度の完成を目標に事業を進めている。現在のかさ上げ道路の計画では、平時の内水排除機能等を考慮し、39 箇所の開口部を設置する予定としており、開口部について津波対策の手法を以下のとおり、震災復興推進本部会議（平成 27 年 11 月 9 日）に付議され了承されたところである。

今回、当該本部会議でのご意見等を踏まえ、2 m 以下の開口部に係る対策について、対応方針を決定するものである。

## 2. 開口部の対策方針

## ○開口部は暗渠化（ボックスカルバート）し、ゲートを設置する

- ・津波防御の観点から、できるだけ遮水が可能な構造とする
- ・津波からの影響を軽減するため、開口部の設置は最小限の箇所としさらに暗渠化する
- ・開口部の大きい箇所については、対策としてボックスカルバートにゲートを設置する



## ○ゲート（対策工）は、無動力のフラップゲート（バランスウェイト付）を採用

- ・対策工法は、幅広い視点から候補を挙げ絞り込みを行う
- ・津波防御の効果、操作性、経済性などの視点から、評価を行い実現性の高い案を選定



## ○全体開口部39箇所のうち、開口部の大きい箇所（幅2m以上の16箇所）について、ゲートを設置

想定事業費 約 30 億円



## ○復興本部会議にて頂いたご意見

- ・集落背後の水路については、2m 以下でも何らかの対応が必要ではないか
- ・水路からの流入量計算などによる数値的な根拠が必要ではないか



## ○（対応案）全体開口部39箇所について、ゲートを設置

- ・震災復興計画との整合を図る観点から、全ての箇所を対策することが適切であるため、幅2m以下の箇所についても対策を実施する
- ・設置箇所の増加に伴い、事業費についても若干の増加が見込まれる。

想定事業費 約 33 億円

## 3. 今後のスケジュール（予定）

- 地元への説明 平成 27 年 12 月～
- 道路本体工事と併せて工事発注 平成 28 年 5 月